

# FD/教育改善とキャリア教育を「大学生生活」で接続する —大学生キャリアセミナー（学生研修）の理論と実践—

溝上慎一<sup>1</sup>・須川いずみ<sup>2</sup>・岩田真理子<sup>2</sup>

1. 京都大学高等教育研究開発推進センター 2. 京都ノートルダム女子大学人間文化学部

## 問題意識

近年盛んになされている FD（ファカルティ・ディベロップメント）/教育改善と、学生のキャリア教育とを接続する空間として学生の「大学生生活」を設定し、その改善・発展を「大学生キャリアセミナー」で実践していくことについて、理論的・実践的に報告するものである。大学生キャリアセミナーは「学生研修」であり、会社員に OJT/Off-JT があるならば、あるいは教職員に FD/SD があるならば、学生にも研修があつていいのではないかと、との考えを前提としている。また、政策的には、昨年末に提示された中央教育審議会 大学分科会 質保証システム部会「大学における社会的・職業的自立に関する指導等（キャリアガイダンス）の実施について（審議経過概要）」（平成 21 年 12 月 15 日）に対応するものでもある。

改めて言うまでもなく、FD/教育改善はどこの大学でもかなり本格的になされるようになってきており、教員の授業への取り組み方や教授法・授業内容、さらにはそれらを取り巻く授業ツールや授業システム、カリキュラムはずいぶん改善・発展している。今日の学生は以前の学生に比べて、学業（授業）中心の大学生生活を過ごすようになってきており（武内, 2003）、FD/教育改善の成果も現れているとまずは見て取れる。他方で、キャリア教育もキャリア（支援）センターを中心に正課内外で、セミナーや講習会、インターシップやキャリア形成の授業など、さまざまなプログラムを提供しており、充実してきている。学生はこのようなプログラムへの参加を通して社会を学んだり、将来自分はどのような職業に就きたいのか、どのような人生を過ごしたいのかなどの自己理解を深めたりしている。

これまで一般的な傾向として、FD/教育改善は正課教育、キャリア教育はどちらかと言えば正課外教育と、両者は独立して進められてきた。FD/教育改善は、教養や専門知に関する授業改善に主な焦点を当て、授業で学生のキャリアを形成しようとは考えてこなかった。他方でキャリア教育は、たとえ単位になる授業が正課教育のなかで開講されようとも、一般的には正課外のプログラムを基礎としており、かつそれらを一般の授業と関連づけて実施しようとは考えてこなかった。いま求められるのは、独立した FD/教育改善とキャリア教育との統合である。上述のキャリア教育に関する政策が、単に学生支援としての問題ではなく、学士課程教育における質保証の問題として議論がなされているのは、この統合の問題意識を端的に示している。

この統合問題に対して筆者らが提案するのは、「大学生キャリアセミナー」と称する正課外での学生研修プログラムである。近年いくつかの大学で、学生のキャリア教育を柱にして正課カリキュラムを再編成する取り組みが展開しており高く評価されているが、筆者らは違った角度からのアプローチを試みたい。というのも、FD/教育改善・キャリア教育がさまざまな水準や次元で多様になされているにも関わらず、学生の日常生活に学業や将来のキャリアの問題は十分に接続していないからである。学生の多くは、ただ与えられる授業にまじめに参加し課題をこなし、将来や社会のことをプログラム上ではいろいろ考えながらも、日常の生活ではそれを反映させた活動をほとんどしていないのである（溝上, 2010）。授業やキャリア教育など与えられる場は充実していても、そこから自らのキャリアや人生、学業の意味などを見いだすことはなかなかできていないのである。授業やキャリア教育、カリキュラムなど、いろいろ改革が展開しているのだが、そ

ろそろ学生の大学生活の視点から、これまで大学関係者がおこなってきたさまざまな改革を位置づける、意味づける作業が必要ではないだろうか。

このような問題意識にもとづいて、本報告ではその第一弾として実施された京都ノートルダム女子大学人間文化学部英語英文学科での取り組みを報告する。

### 京都ノートルダム女子大学での「大学生キャリアセミナー」の実施

**実施回数・日時：**第1回（2009年10月29日）、第2回（2009年12月14日）、第3回（2010年2月5日）をセットとして、原則3回とも出席することを参加の条件とした。これは、大学生活の改善・再組織化のプロセスを確認していくためである。

**目的：**日々の学生生活を将来につなげること

**参加に当たっての留意点：**セミナーの目的と、これまでおこなってきた学生調査やインタビューの結果をふまえて学生には、「現状で満足しないこと」「何とかなると思わないこと」「目標や課題を立てること」「一歩でも上に成長したいと思うこと」を参加の留意点として示した。

**課題・目標のポイント：**「将来」と「大学生活」それぞれの次元について考えさせた。将来次元では、具体的に「どのような職業に就きたいか」「人生これは大事にしていきたいということは何か」について考えさせ、大学生活次元では具体的に「将来に向けて何を頑張ればいいのか」「今の自分の短期的・中期的な目標や課題は何か?」「日々の生活でもっとこうしたいところ、改善すべきところはあるか」などについて考えさせた。大学生活にとっての「学業」の意味づけについては、2回目のセミナーから検討項目として挿入した。

**プログラムの特徴：**①OG・上回生による講演、②調査アンケートへの回答（状況診断）、③学生同士のディスカッション、④リフレクションシートで課題や目標を記入、⑤（中間）成果発表、などを主な特徴とした。

ほか、大学生キャリアセミナーの結果や参加者の変化などについては、当日詳細を報告する。

名前	学年	学生タイプ	2つのライフ
921...	1	3	3
82...	2	3	4 ×
821...	2	3	2
821...	2	1 ×	2
821...	2		2
821...	2	3	4 ×
821...	2	3	2
921...	1	3	2
921...	1	3	2
921...	1	1 ×	2
921...	1	3	1
921...	1	3	4 ×
921...	1	3	2
921...	1	3	2
211...	2	3	2

調査結果から診断された学生の個別の学生の特徴



キャリアセミナーの様子

【付記】本事業・研究は、京都ノートルダム女子大学人間文化学部英語英文学科の平成21年度文部科学省大学教育・学生支援推進事業（GP）『キャリア形成データベースを利用した社会人基礎力養成プログラム』の一環です。なお、京都ノートルダム女子大学は、関西地区FD連絡協議会パイロット校として、京都大学高等教育研究開発推進センターと連携して本プログラムを推進しています。